

株式会社ジェイコム武蔵野三鷹局

放送番組審議会 議事録

平成29年度(2017年度)株式会社ジェイコム武蔵野三鷹局番組審議会は、2018年3月20日(火)武蔵野三鷹局にて開催された。

【放送番組審議会委員】

ご出席 ご欠席

土方 弘子 様 新井 正樹 様
岡崎 昌史 様
秋山 慎一 様
名古屋 友幸 様
和久津 豊 様

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：土方会長

■ 武蔵野市との取組について

委員

東京五輪に向けて「武蔵野市 Sports for All」というイベントを行っている。オリンピック・パラリンピックの元選手や五輪を目指している選手を招いて、交流やスポーツの啓発を続けていくので、積極的に取り上げてもらいたい。武蔵野市のコンテンツをより広いエリアに届けていきたい。

事業者

2020年の東京五輪への取り組みは未定だが、各地域で練習に励んでいるアスリートや地域の皆さんが応援する姿を追っていきたい。是非 情報を寄せてほしい。

■ 三鷹市との取組について

委員

地域のコンテンツが充実してきていると実感した。「みる・みる・三鷹」の立ち上げ時に広報を担当していたが、当時から比較すると幅が広がってきている。地域コンテンツに対する視聴者からの反応や意見が寄せられて

いるようであれば共有してほしい。

事業者

視聴者の意見を集約する仕組みはないが、取材時や営業活動の際によくお声がけを頂戴する。その都度ご担当者様にフィードバックを返していくように努めていく。

■放送エリアに関して

委員

2020年に向けて、多摩エリアでは26市が協力して観光に対する取り組みを続けている。自身が暮らす街に隣接する市のことを知らない住民も多いと思うので、多摩エリアという範囲に焦点を当てた番組を制作していくと地域がつながっていくのではないかと。

事業者

セグメントできる媒体なので、武蔵野・三鷹エリアから全国枠まで選択肢は幅広い。必要に応じて近隣エリアに発信して、コンテンツをシティプロモーションにつなげていく。イベントのプロデュースやプロモーションも行っているため相談してほしい。

■「デイリーニュース」について

委員

把握しているようであれば、「デイリーニュース」の視聴率が知りたい。

事業者

コミュニティチャンネルは2通りの視聴方法がある。加入者はセットトップボックスという専用の機器経由での視聴になるが、未加入者でもJ:COMのケーブルが接続されている集合住宅などではご覧になれるので、正確なデータを取ることが難しい。各番組に対するリサーチやグループインタビュー、電話調査の結果を指標として、認知度向上に努めている。

■アプリ「ど・ろーかる」について

委員

総務省の情報通信白書でもスマートフォン社会の到来がテーマになっており、70%を超える世帯に普及している状況。アプリ「ど・ろーかる」での番組視聴は若い世代と親和性が高く、ゆくゆくはCATVという媒体に対する訴求へとつながるだろう。アプリのダウンロード数がわかるようであれば知りたい。

事業者

テレビを家で見ない時代に入っていると感じる。アプリ「ど・ろーかる」のダウンロード数は非公開だが、Apple社の公式アプリストア「App Store」にて、1/29(月)に「地域の情報を知ろう」という特集が行われた。「ど・ろーかる」は目玉アプリとして紹介され、全ての無料アプリの中で164位を記録している。

■メディアを取り巻く現状

委員

これだけ豊富なコンテンツを制作・放送されていることに感銘を受けた。ネットをはじめ、コンテンツの流通チャンネルはあふれている。せっかく良い内容のコンテンツを放送しているので、見てもらう工夫が重要。

委員

1970年代から新聞記者として媒体事業を経験、衛星放送の支援やネットビジネスの取材もしてきたが、J:COMは大きな転機を迎えているのではないかと感じる。新聞の部数が急速に減っている中、今後CATVサービスの加入者が増加していくとは考えにくい。ネットの主流はスマートフォンに移行しており、これからはパソコン自体に触らない世代が出てくるかもしれない。

最後はコンテンツの勝負。地上波には作れない地域密着の番組を作っているのは強みであり、地元でコンテンツを制作していることがジェイコム武蔵野三鷹の存在価値だと思う。

ネット経由での視聴であれば、武蔵野三鷹に縁のある方が全世界どこからでもご覧になれる。新聞も電子版であれば世界がマーケットになるので、コンテンツメーカーとして生き残っていくことを考えて広告獲得も検討すべき。5年・10年先を見据え、ツールを増やしていくといずれ実を結ぶだろう。

事業者

地域の情報や、地域に根差した、地域でしか生み出せないコンテンツ開発がコミュニティチャンネルの役割だと考えている。CATVの基盤であり、きっちりと取り組んでいきたい。

■プライバシーに関して

委員

昨今プライバシーの問題で映像へのマスクングが顕著だが、J:COMの考えを教えてください。

事業者

プライバシーを含めた権利処理は非常に厳しくなっており、学校での撮影では全員から許諾を取ることもある。放送基準に基づいた整理を行い、取材対象の方や関係者のご理解を得よう働きかけている。

■編成に関して

委員

ローカルなテーマのドキュメンタリーがあると面白い。海外ドラマ「シカゴ・ファイア」とのコラボレーション企画で地域を守る消防士のドキュメンタリーを制作されているが、視聴者が身近に感じられて良い。

題材の一例として、自衛消防訓練がある。市の若手職員は一定期間 練習を行い本番に臨むが、そうした過程を追う番組は見応えがあると思う。

委員

子供向けの番組を放送してはどうか。3～5 分といった短尺で構わないので、子供がまた見たくなるような、繰り返し見られるコンテンツが望ましい。

委員

編成の際、広域にするか、地域限定にするかはどのように決めているのか？

事業者

地域から寄せられた声を参考に、その都度 各部署と打ち合わせのうえ決定している。

八王子 100 周年のような記念事業の場合は、規模感や企画内容によって全国放送をさせて頂くこともある。現在はアプリ「ど・ろーかる」を活用することで、テレビという枠に縛られずに発信が可能となった。

今後はテレビとアプリを組み合わせながら編成していく。

以上